



Innovation today, healthier tomorrows

大日本住友製薬株式会社 【証券コード：4506】

2019年8月20日

コーポレートコミュニケーション部

広報・IRグループマネージャー 清瀬克也

将来予測に関する事項

- 本資料には、当社グループに関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しています。
- したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

本日のご説明内容



医薬品業界



大日本住友製薬の概要



研究開発



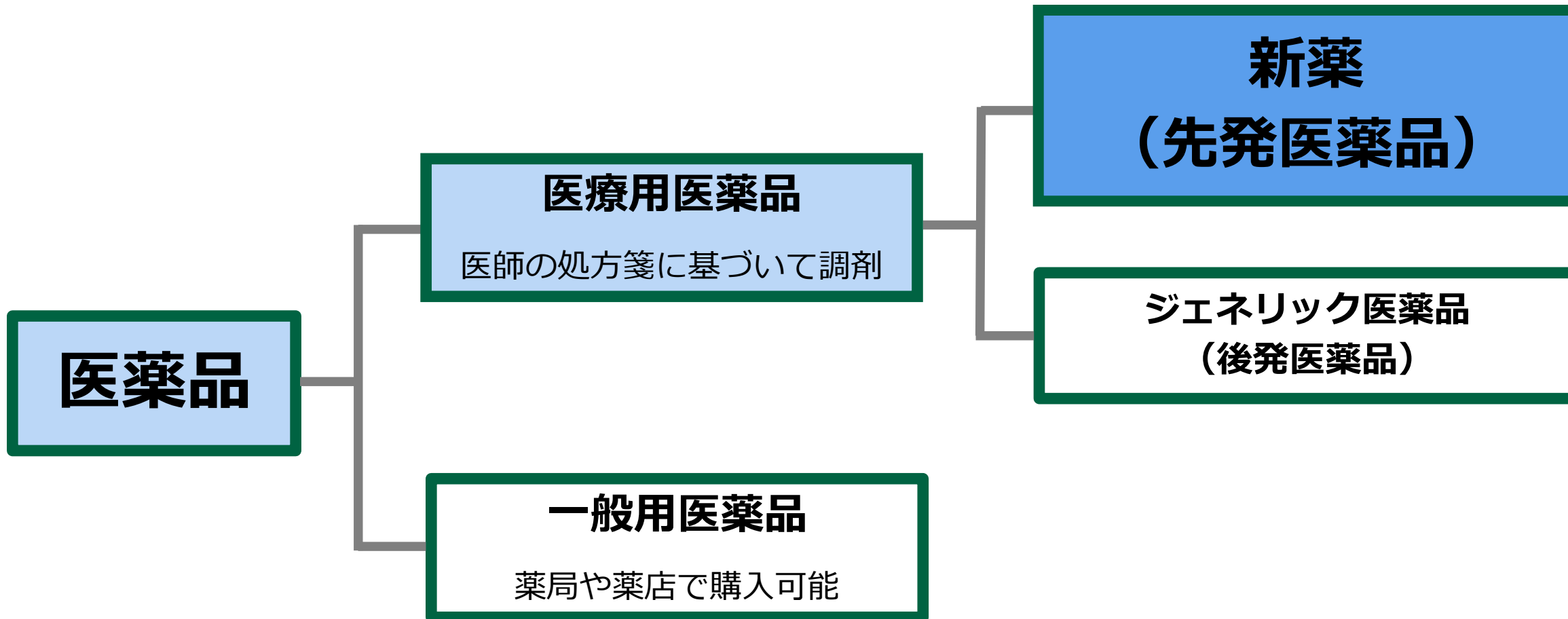
地域戦略



経営目標、投資戦略、株主還元

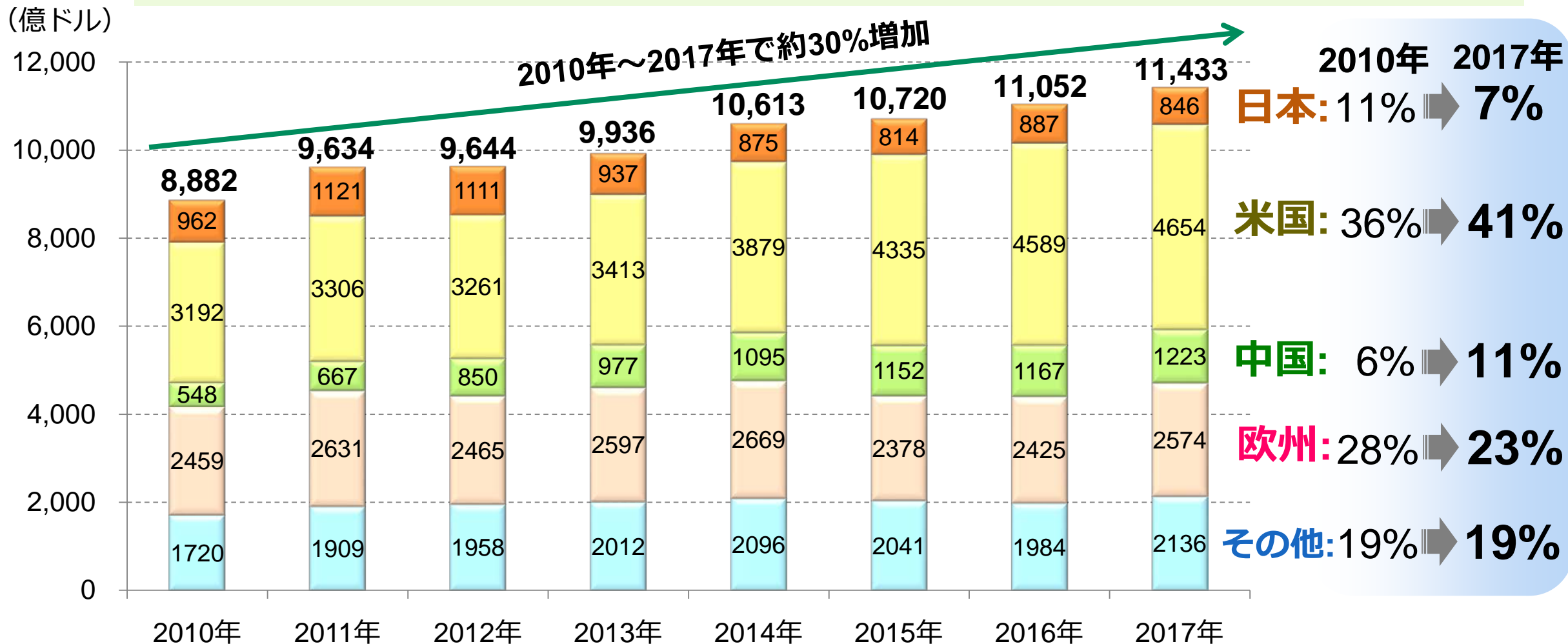


医薬品業界





1位米国、2位中国、3位日本



(出典：Copyright © 2018 IQVIA. IQVIA World Reviewをもとに医薬産業政策研究所にて作成 当社一部改変（無断転載禁止）)



世界売上上位100品目中の日本企業製品（2018年）

ラツォーダの売上順位91位

● 世界売上上位10位

(百万ドル)

順位	製品名	主な適応疾患	企業名	2018年売上
1	ヒュミラ	関節リウマチ	AbbVie/エーザイ	20,478
2	エリキュース	抗凝固剤	BMS/Pfizer	9,872
3	レブラミド	抗がん剤	セルジーン	9,685
4	リツキサソ	抗がん剤	Roche/Biogen	8,326
5	オプジーボ	抗がん剤	小野薬品/BMS	8,201
6	エンブレル	関節リウマチ	Amgen/Pfizer/武田	7,445
7	アイリーア	加齢黄斑変性症	Regeneron/Bayer/参天	7,255
8	キイトルーダ	抗がん剤	メルク	7,171
9	ハーセプチン	抗がん剤	Roche/中外	7,142
10	アバスチン	抗がん剤	Roche/中外	7,006

● 日本企業創製品

(百万ドル)

順位	製品名	主な適応疾患	企業名	2018年売上
5	オプジーボ	抗がん剤	小野薬品/BMS	8,201
11	テビケイ/ トリーメク	抗HIV薬	ViiV Healthcare/塩野義	6,805
27	ジレニア	多発性硬化症	田辺三菱/Novartis	3,791
41	アクテムラ	関節リウマチ他	中外/Roche	2,939
52	エンティビオ/ エンタイビオ	潰瘍性大腸炎	武田	2,438
60	ベルケイド	多発性骨髄腫	武田/J&J	2,274
76	リューブリン/ ルプロン	抗がん剤	武田/AbbVie	1,889
84	プログラフ	免疫抑制剤	アステラス	1,772
85	クレストール	高脂血症	塩野義/Astrazeneca/Almirall	1,769
91	ラツォーダ	統合失調症他	大日本住友	1,663



日本企業は上位50位までに9社ランクイン、大日本住友製薬は**42位**

2018年医薬品売上ランキング（単位：億ドル）

● 世界上位10位

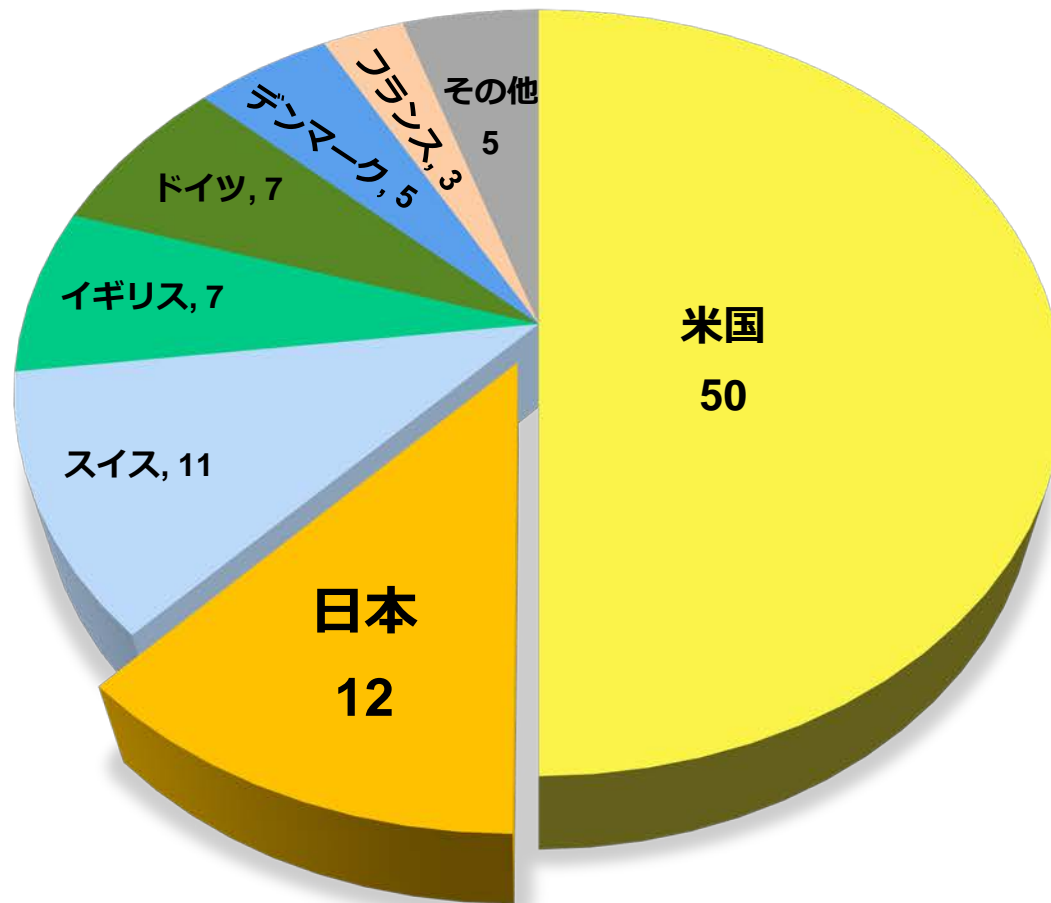
順位	メーカー名	国名	売上高
1	ファイザー	米国	500
2	ロシュ	スイス	476
3	ノバルティス	スイス	448
4	ジョンソン&ジョンソン	米国	407
5	メルク	米国	377
6	サノフィ	フランス	366
7	アッヴィ	米国	328
8	グラクソ・スミスクライン	英国	313
9	アムジェン	米国	237
10	ブリistol・マイヤーズ	米国	226

● 日本企業の世界ランキング

順位	メーカー名	売上高
15	武田薬品工業	185
23	アステラス製薬	118
26	第一三共	78
27	大塚ホールディング	75
30	エーザイ	56
34	中外製薬	53
41	田辺三菱製薬	38
42	大日本住友製薬	38
44	塩野義製薬	32
51	小野薬品	26



創薬力 1位米国、2位日本、3位スイス



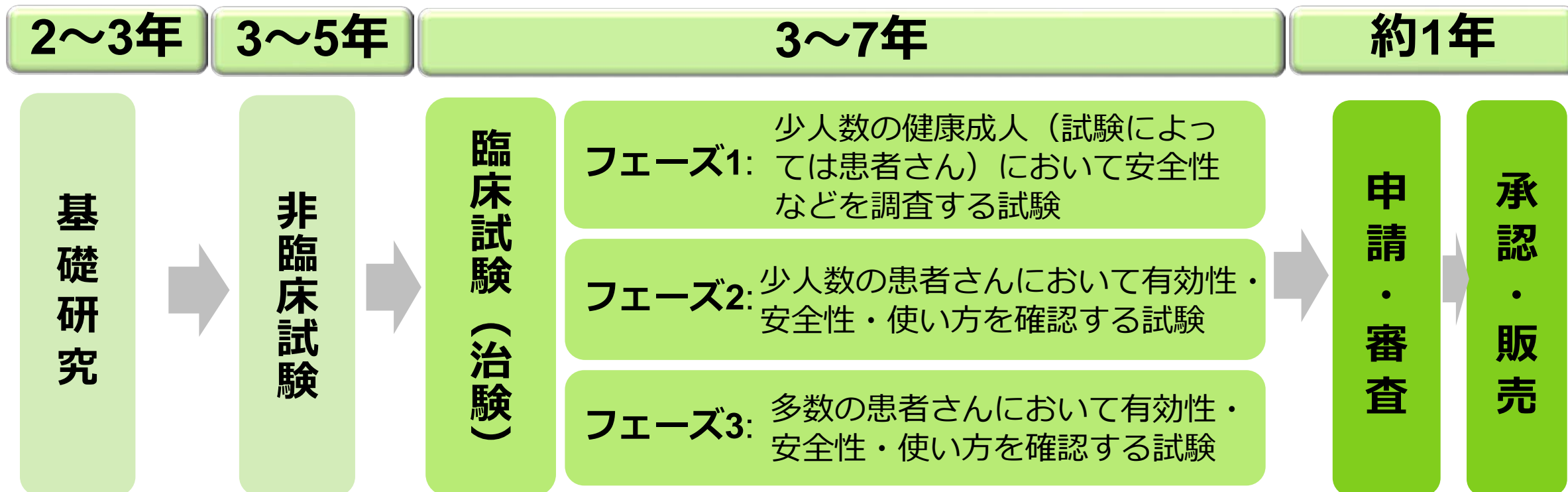
（注：特許帰属企業の国籍による分類 2017年売上上位100品目を、オリジン企業国籍別に集計した

出所：Copyright© 2018 IQVIA. World Review Analyst, IQVIA Pipeline & New Product Intelligence, Pharmaprojects, Evaluate Pharma, Integrityをもとに作成（無断転載禁止）

出典：医薬産業政策研究所 政策研ニュースNo.55（2018年11月）



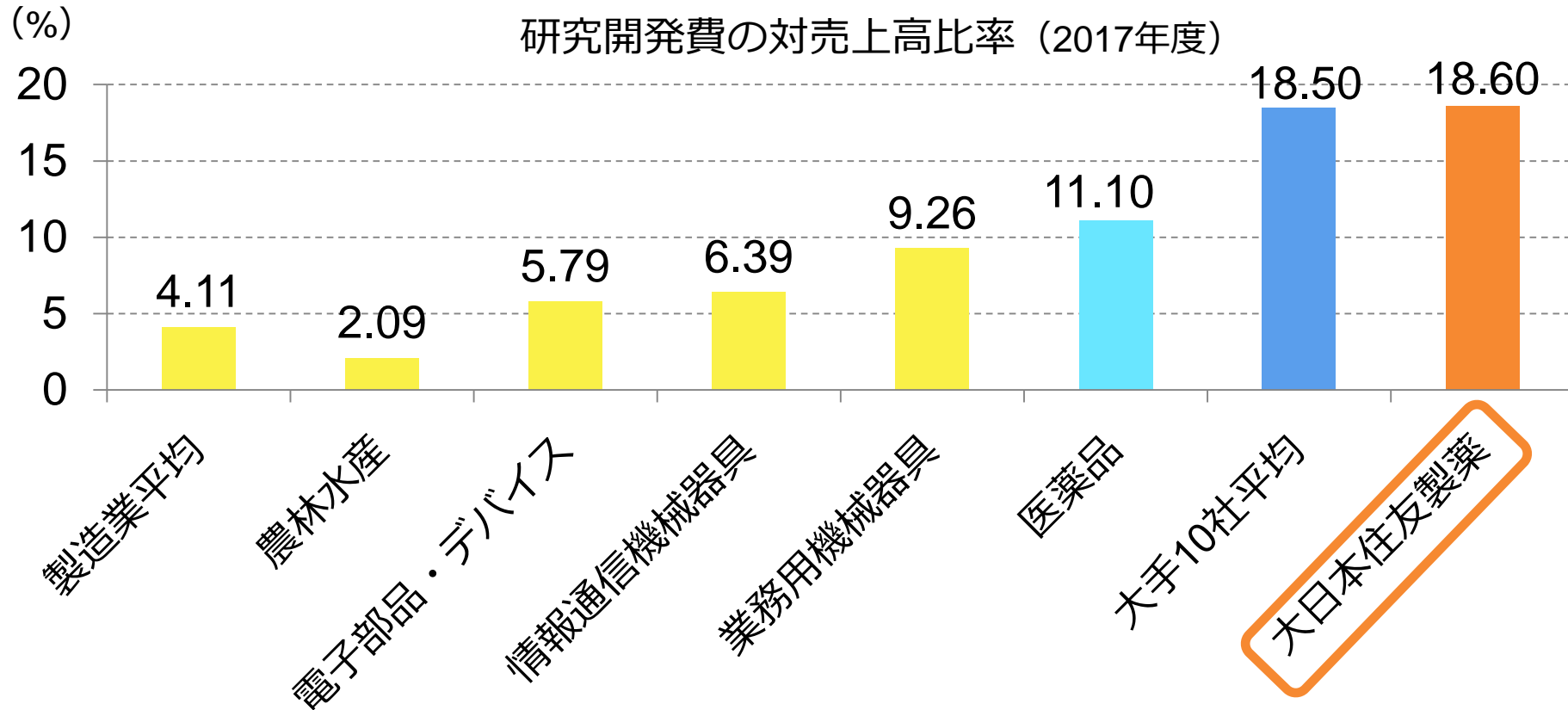
新薬の開発期間 **9~16年**、成功確率 **約25,000分の1** (低分子医薬品)



* 非臨床試験：
動物や培養細胞を使用し、薬の候補である物質の有効性と安全性を調べる試験



多額の研究開発投資



製薬大手10社
平均研究開発費：
1,414億円

大日本住友製薬
研究開発費：

2017年度
869億円
(対売上高比率18.6%)

(出所：厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」 出典：日本製薬工業協会 DATA BOOK 2019)

世界各国で後発医薬品の使用促進など医療費抑制が進むなか、当社は多額の研究開発費を投じ、新薬の創出を目指している。



大日本住友製薬の概要



旧大日本製薬

- 1897年 (明治30年) 5月14日設立
大阪・道修町の有力薬業家21名により大阪製薬株式会社が設立
- 1898年 大阪・海老江に製薬工場を設置
東京にあった半官半民の大日本製薬会社を吸収合併し、社名を大日本製薬株式会社に改称

旧住友製薬

- 1944年 住友化学工業株式会社（現在の住友化学株式会社）が医薬品部門に進出
- 1984年 (昭和59年) 2月6日設立
住友化学の医薬事業の研究、開発、製造部門と、住友化学の医薬品の販売総代理店であった稲畑産業株式会社の医薬販売部門を継承して、住友製薬株式会社が設立

2005年10月 誕生 大日本住友製薬

企業理念

人々の健康で豊かな生活のために、研究開発を基盤とした新たな価値の創造により、広く社会に貢献する

合併によって目指したもの

- 国内市場でのプレゼンス拡大、
- 研究開発の強化、
- 自社海外展開



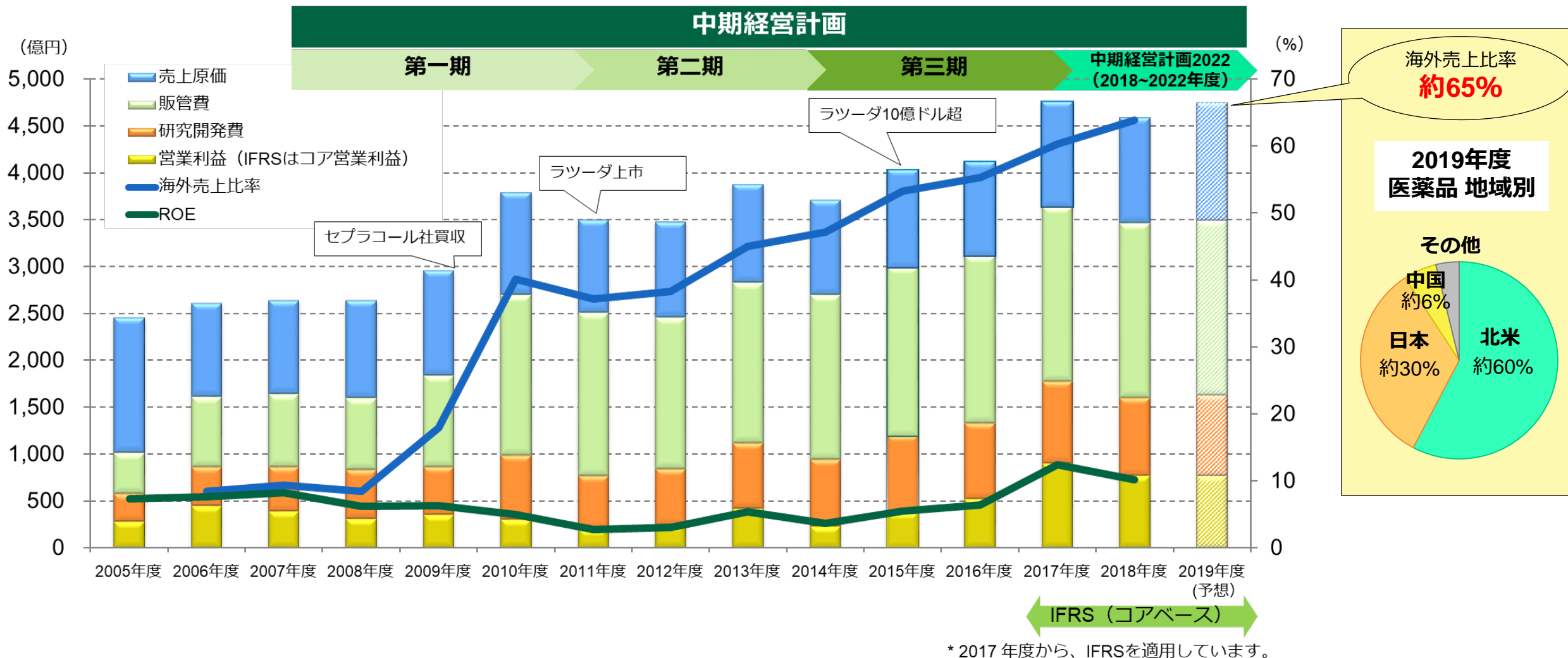
合併期日	2005年10月1日 (大日本製薬と住友製薬が合併し発足)
資本金	224億円
代表者	野村 博 (代表取締役社長)
本社所在地	大阪本社：大阪市中央区道修町2-6-8 東京本社：東京都中央区京橋1-13-1
連結従業員数	6,140名 (2019年3月31日現在)
売上収益	4,593億円 (2018年度)
研究開発費	829億円 (2018年度)
コア営業利益	773億円 (2018年度)
証券コード	4506 (東証一部) 単元株式数100株



野村 博
(2018年4月1日付社長就任)

*国際会計基準 (IFRS) の適用について

2017年度より国際会計基準 (IFRS) を適用し、経常的な収益性を示す利益指標として「コア営業利益」を採用しています。
(コア営業利益：営業利益から当社グループが定める非経常的な要因による損益 (非経常項目) を除外したもの)



* 2017年度から、IFRSを適用しています。



研究開発力

研究重点3領域における
特徴ある研究開発力

精神
神経

がん

再生
細胞

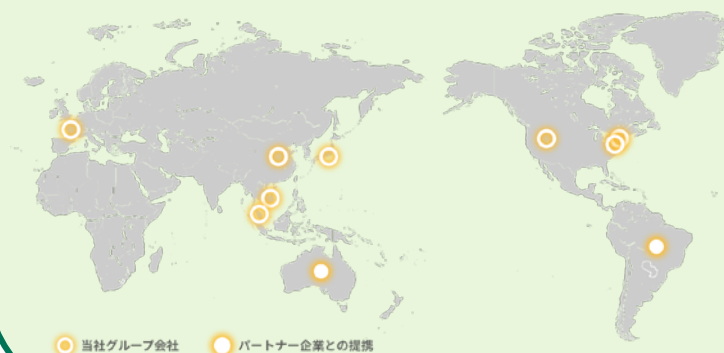
人材

個々の従業員の能力を
活かす仕組みと優れた人材



基盤

日本・米国・中国は
現地本社機能・販売機能・
開発機能など強固な基盤を
有する





ビジョンと2033年の目指す姿

ビジョン もっと、ずっと、健やかに。
最先端の技術と英知で、未来を切り拓く企業

変わりゆくヘルスケア領域での社会の課題を解決する企業として、
2033年に「グローバル・スペシャライズド・プレーヤー」の地位を確立することを目指す

グローバル・スペシャライズド・プレーヤー

医薬品+ソリューション

医薬・細胞
ソリューション



ヘルスケア
ソリューション
(フロンティア事業)

3領域でグローバルリーダー

精神
神経

がん

再生
細胞

2033年の姿

中期経営計画2022 事業基盤の再構築

成長エンジンの確立



柔軟で効率的な組織基盤づくり



中期経営計画 2022の基本方針：事業基盤の再構築

「変革の時」への対応とともに、ポスト・ラツーダ（米国でのラツーダの独占販売期間終了後）を見据え、「成長エンジンの確立」と「柔軟で効率的な組織基盤づくり」により、事業基盤の再構築に取り組む

I. 成長エンジンの確立

- | | | |
|--|---|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 新たな創薬アプローチによるイノベーション基盤強化 ② 確実に成果を創出する開発力の強化 | } | <p>詳細は19～25ページ</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ③ 戦略的投資によるパイプラインの拡充 | | <p>詳細は34ページ</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ④ 日本・北米・中国を柱とした地域戦略 | | <p>詳細は28～31ページ</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ⑤ フロンティア事業の立ち上げ | | <p>詳細は26ページ</p> |

II. 柔軟で効率的な組織基盤づくり

「ちゃんとやりきる力」

柔軟で効率的な組織・オペレーション

デジタル革新

変革を加速する企業文化・人材



研究開発



アンメット・メディカル・ニーズの高い領域を重点領域とし、
革新的な新薬の創出に全力を注ぐ

重点領域

精神神経領域

がん領域

再生・細胞医薬分野

感染症領域

グローバルヘルスに貢献

アカデミア等との共同研究により、薬剤耐性菌感染症治療薬、マラリアワクチンおよび万能インフルエンザの研究を展開

* アンメット・メディカル・ニーズ：いまだ満たされていない医療ニーズ、つまり、いまだ有効な治療方法がない疾患に対する医療ニーズのこと

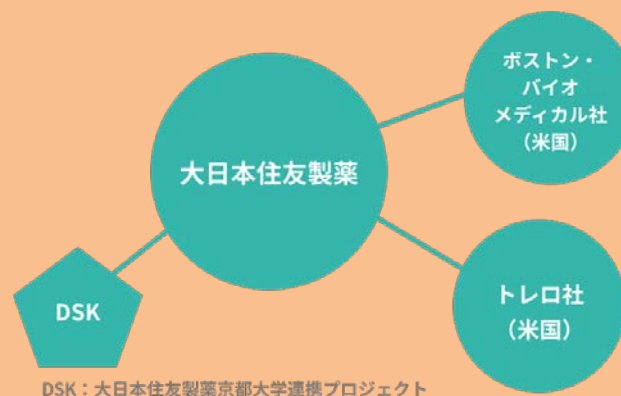


精神神経領域

- ✓ 継続的に製品を創出してきた実績・自社で培った研究開発のノウハウを保有
- ✓ 先端技術を活用した創薬へ取り組む

がん領域

- ✓ 独自技術にフォーカスした研究開発に取り組む
- ✓ 当社グループ内およびアカデミアやベンチャーとの強固なネットワークを保有



DSK：大日本住友製薬京都大学連携プロジェクト

再生・細胞医薬分野

- ✓ 当社および住友化学の長年の研究蓄積と総合力を活用
- ✓ iPS細胞由来の細胞医薬品の事業化を目指すトップランナー
- ✓ 世界初の他家iPS細胞由来の再生・細胞医薬品専用の商業用製造施設を保有

2018年3月竣工
(大阪府吹田市)
「SMaRT」



主な開発品目一覧 (2019年7月31日現在)



: 精神神経領域
 : がん領域
 : 再生・細胞医薬分野
 : その他の領域

地域	フェーズ1		フェーズ2	フェーズ3	申請
日本	dasotraline (ADHD)	alvocidib (AML)	SEP-4199 (双極 I 型障害うつ)	EPI-743 (リー脳症)	ルラシドン (統合失調症/双極性障害うつ)
	SEP-363856 (統合失調症)	TP-0903 (固形がん)	DSP-7888 (固形がん/血液がん)	ナパブカシン (結腸直腸がん)	リサイオ (悪性リンパ腫における自家造血幹細胞移植の前治療)
	EPI-589 (筋萎縮性側索硬化症)		他家iPS細胞由来細胞医薬 (パーキンソン病) 医師主導治験	imeglimin (2型糖尿病)	
米国	DSP-6745 (パーキンソン病に伴う精神病症状)	alvocidib (AML / MDS)	EPI-589 (パーキンソン病/ALS)	SEP-363856 (統合失調症)	dasotraline (BED)
	SEP-378608 (双極性障害)	TP-0903 (固形がん/血液がん)	SEP-363856 (パーキンソン病に伴う精神病症状)	ナパブカシン (結腸直腸がん)	dasotraline (ADHD) 開発方針見直し中
	DSP-3905 (神経障害性疼痛)	DSP-0509 (固形がん)	SEP-4199 (双極 I 型障害うつ)		アポモルヒネ (パーキンソン病に伴うオフ症状) 審査結果通知を受領
	SEP-378614 (治療抵抗性うつ)	TP-0184 (固形がん)	alvocidib (再発・難治性AML)		
	SEP-380135 (アルツハイマー病に伴う行動障害)	DSP-0337 (固形がん)	amcasertib (固形がん)		
		TP-1287 (固形がん)	DSP-7888 (固形がん/血液がん)		
	TP-3654 (固形がん)	SB623 (慢性期脳梗塞)			



自社品の研究開発で蓄積した知見を生かし、SEP-363856の後期臨床開発を推進する

画期的な薬剤プロファイル

- ドパミンD₂受容体に作用しない
- 陽性症状に加え陰性症状にも高い効果を示す可能性
- 既存の抗精神病薬の安全性上の課題を解決する可能性

適応症の拡大

- 統合失調症での確実な承認取得
- 他の精神疾患へのタイムリーな展開

独自性の高い臨床開発

- 自社経験を踏まえた精度の高い臨床試験
- 広範囲な臨床症状の改善を高感度に評価、確認
- 自社品（ラツーダ）のデータを活用した臨床開発

SEP-363856

新世代抗精神病薬
(Non-D₂)
治療法の変革を目指す

ラツーダを超える製品に成長
することを期待

- 開発段階：フェーズ3試験（米国、統合失調症）
- 上市目標：2023年度



着実・スピーディーに開発を進め、オンコロジーフランチャイズを早期に確立する

後期開発品目

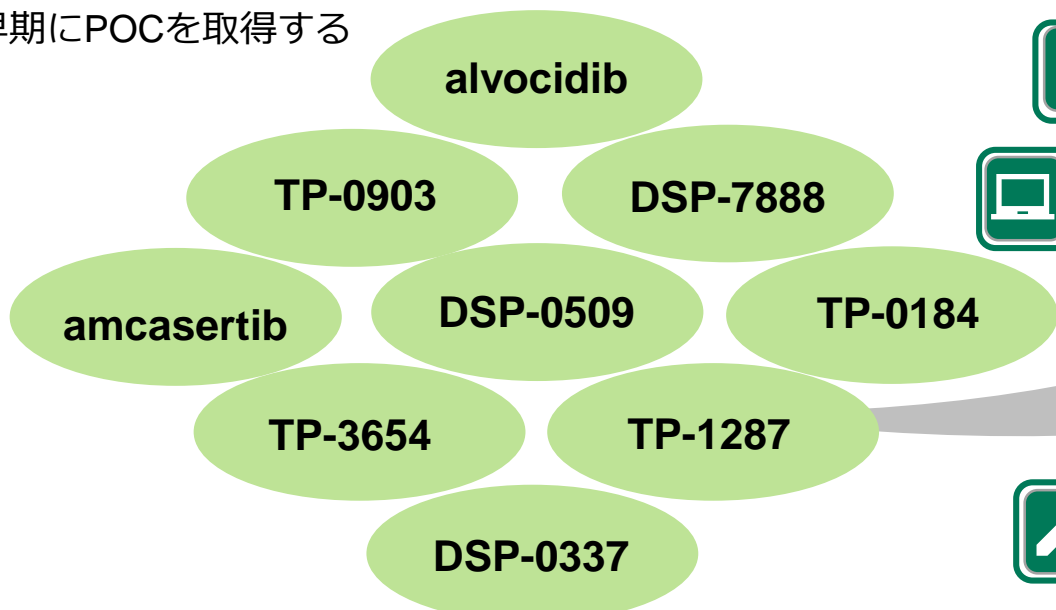
開発を着実に進める

ナパブカシン

初期開発品目

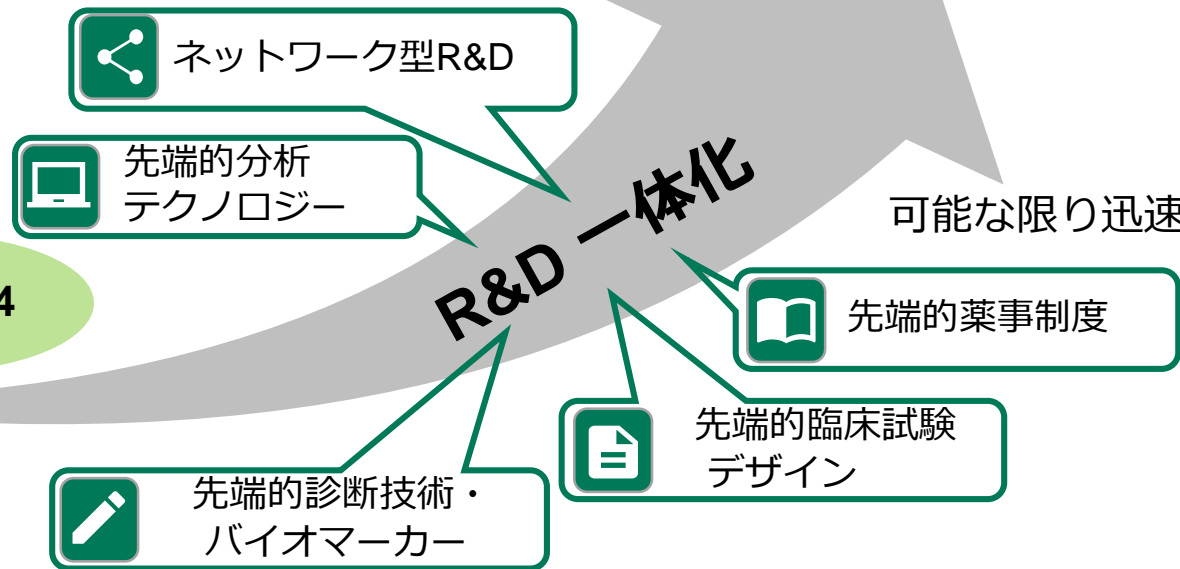
早期にPOCを取得する

先端的テクノロジー・手法を活用した高効率R&D



多様でイノベーティブなパイプライン

オンコロジー フランチャイズの 早期確立



可能な限り迅速承認制度を活用



オープンイノベーションを基軸に、高度な工業化・生産技術（SMaRT）と最先端サイエンスを追求する当社独自の成長モデルにより早期事業化を図る

現行プロジェクト（神経・眼科中心）

- ✓ 間葉系幹細胞（MSC）
SB623
- ✓ 他家iPS細胞由来分化細胞
ドパミン神経前駆細胞
網膜色素上皮細胞
神経前駆細胞
- ✓ 他家iPS細胞由来立体組織
立体網膜

次世代再生医療実現（末梢臓器へも）

- ✓ 遺伝子治療
- ✓ 臓器再生
- ✓ ゲノム編集
- ✓ 自家細胞治療
- ✓ 周辺サービス（診断・リハビリなど）

日米中心に次期中計期間（2023～2027年度）からの収益貢献を目指す



予定適応症等	連携先	予定地域	細胞種	実施状況
慢性期脳梗塞 (SB623)	サンバイオ	北米	他家 間葉系幹細胞	フェーズ2b試験終了 開発方針・上市目標見直し中
加齢黄斑変性	ヘリオス 理化学研究所	Global	他家 iPS細胞由来 網膜色素上皮	臨床研究実施中 企業治験開始に向けて準備中 (日本)
パーキンソン病 (先駆け審査指定制度対象)	京都大学iPS 細胞研究所 (CiRA)	Global	他家 iPS細胞由来 ドパミン神経 前駆細胞	医師主導治験実施中 (フェーズ1/2試験) (日本)
網膜色素変性	理化学研究所	Global	他家 iPS細胞由来 網膜シート (立体組織)	臨床研究開始に向けて 準備中
脊髄損傷	慶應義塾大学 大阪医療センター	Global	他家 iPS細胞由来 神経前駆細胞	臨床研究実施中
腎不全	東京慈恵会医科大学 バイオス ポル・メド・テック	日本 北米	自家/他家 iPS細胞由来 ネフロン前駆細胞 (立体臓器)	非臨床試験実施中

2022年度
上市目標*

* 上市目標は連携先との合意ではない当社の目標



「求められる健やかさ」を医薬品のみで実現することが困難な時代の到来

フロンティア事業
ビジョン

医薬品と一体となり「多様な健やかさ」を実現する

医薬品以外のヘルスケア領域において、デジタル技術を活用して社会課題解決のための新たなソリューションを提供することを目指す

- 疾病の治療に加え予防および患者さんのケアに着目する
- 自社医薬事業とシナジーが見込める領域を中心に事業基盤を構築する

次期中計期間（2023～2027年度）で成長エンジンとしての確立を目指す



地域戦略



日本・北米・中国を柱とした地域戦略

欧州

自販やパートナー企業との連携による事業拡大

- ✓ サノビオン・ファーマシューティカルズ・ヨーロッパ・リミテッド (英国)

日本

次期中計期間の売上2,000億円達成に向けた基盤づくり

- ✓ 大日本住友製薬 (3,078名)

北米

ポスト・ラツォーダを見据えた成長路線の確立

- ✓ サノビオン・ファーマシューティカルズ・インク (米国) (1,693名)
- ✓ ボストン・バイオメディカル・インク (米国) (117名)
- ✓ トレロ・ファーマシューティカルズ・インク (米国) (46名)

中国・アジア

成長市場としての足場固め

- ✓ 住友製薬 (蘇州) 有限公司 (中国) (712名)

Sumitomo Pharmaceuticals (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

Sumitomo Pharmaceuticals Asia Pacific Pte. Ltd. (シンガポール)

オセアニア

パートナー企業との連携

中南米

パートナー企業との連携

● : 研究開発部門

● : 販売部門

● : 地域統括・情報提供・収集拠点

従業員数：2019年6月30日現在



日本（医薬）セグメント

- 売上収益：1,350億円（2019年度予想）
1,293億円（2018年度実績）
- MR 数：1,120名（2019年6月30日現在）
※うち、CNS MR 約350名

営業重点領域

- 精神神経領域：トレリーフ[®]（パーキンソン病）、ロナセン[®]（統合失調症）、イフェクサー[®]（うつ病：プロモーション提携）
- 糖尿病領域：トルリシティ[®]、エクア[®]、エクメット[®]、メトグルコ[®]、シュアポスト[®]
- スペシャルティ領域※：リプレガル[®]（ファブリー病）、アムビゾーム[®]（深在性真菌症）、レミッチ[®]（そう痒症：プロモーション提携）

※アンメット・メディカル・ニーズが高く、高度な専門性が求められる領域

主要製品

トレリーフ[®]

売上収益	157億円（2018年度）
発売日	2009年3月
特長	レボドパ賦活型 パーキンソン病治療薬



トルリシティ[®]

売上収益	231億円（2018年度）
発売日	2015年9月
特長	・週1回投与のGLP-1受容体作動薬 ・アテオスという1回使いきりの オートインジェクター型注入器 によって提供





北米セグメント

- 売上収益：2,600億円（2019年度予想）
2,525億円（2018年度実績）
- MR 数：730名（2019年6月30日現在）

営業重点領域

- 精神神経領域：ラツダ、アプティオム
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）領域：ブロバナ、ロンハラ マグネア、ウチブロン、シーブリ

主要製品

LATUDA®（ラツダ）

売上収益	1,845億円（1,663百万ドル） （2018年度）
発売日	2011年2月
効能	統合失調症、双極 I 型障害うつ
特長	ドパミン D ₂ 、セロトニン 5-HT _{2A} 、 セロトニン5-HT ₇ 受容体に親和性を示し、 アンタゴニストとして作用



2009年10月にサノビオン社（旧セプラコール社）を子会社化

会社名	サノビオン・ファーマシューティカルズ・インク
設立年月	1984年1月
決算期	3月末
場所	米国マサチューセッツ州マールボロ
従業員数	1,693名（2019年6月30日現在）

BROVANA®（ブロバナ）

売上収益	337億円（304百万ドル） （2018年度）
発売日	2007年4月
効能	慢性閉塞性肺疾患 （COPD）
特長	COPDの維持療法に使用される 気管支拡張薬の吸入液



製品上市目標（2019年7月31日現在）



地域	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
日本	<p>ロナセン (統合失調症/テープ製剤) 2019年6月承認取得</p>	<p>ルラシドン (統合失調症/ 双極性障害うつ)</p>	<p>ナパブカシン (結腸直腸がん)</p>	<p>他家iPS細胞由来細胞医薬 (加齢黄斑変性) *2</p>	
	<p>リサイオ (悪性リンパ腫における自家 造血幹細胞移植の前治療)</p>		<p>imeglimin (2型糖尿病)</p>	<p>他家iPS細胞由来細胞医薬 (パーキンソン病) *2</p>	
米国	<p>dasotraline (ADHD) 上市目標見直し中</p>	<p>アポモルヒネ (パーキンソン病に伴う オフ症状)</p>	<p>ナパブカシン (結腸直腸がん)</p>	<p>SB623 *2 (慢性期脳梗塞) 上市目標見直し中</p>	<p>SEP-363856 (統合失調症)</p>
		<p>dasotraline (BED)</p>			<p>TP-0903 *1 (固形がん/血液がん)</p>
		<p>alvocidib *1 (AML) 上市目標見直し中</p>			<p>TP-0184 *1 (固形がん)</p>

■ : 精神神経領域

■ : がん領域

■ : 再生・細胞医薬分野

■ : その他の領域



ピーク時：グローバル売上が500億円規模またはそれ以上を期待する品目（最初の上市に記載）

*1 迅速承認制度活用を前提
(今後、FDAと協議予定)

*2 連携先との合意ではない当社の目標



經營目標、投資方針、株主還元方針



為替レート：1ドル110円、1元16.5円

	2018年度 (実績)	2019年度 (2019年7月公表予想)	2022年度 目標
売上収益	4,593 億円	4,750 億円	6,000 億円
研究開発費	829 億円	860 億円	—
コア営業利益	773 億円	770 億円	1,200 億円
親会社の所有者に 帰属する当期利益	486 億円	360 億円	—
ROIC	11.8 %	4.1 %	10 %
ROE	10.2 %	7.1 %	12 %

ROIC：(コア営業利益－法人所得税) ÷ (株主資本＋有利子負債)

ROE：当期利益 ÷ 株主資本

● ROE

- 長期的にROE10%以上を目指す

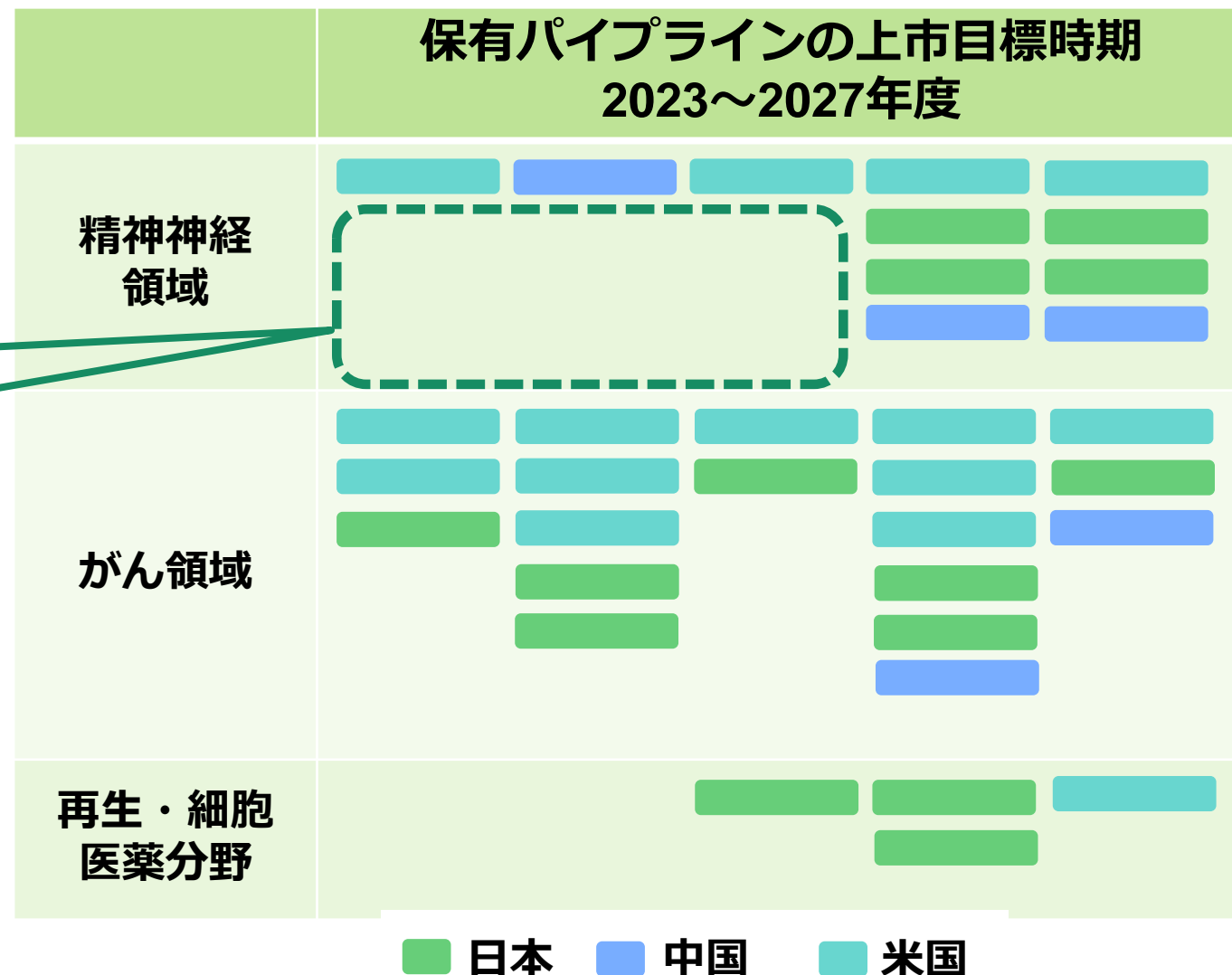
* 経営目標は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しています。したがって、その後のさまざまな要因により、目標が記載どおりに実現しない可能性があります



3,000～6,000億円の
M&A枠を設定

優先的投資①：
2023年度以降の収益に貢献する
精神神経領域のパイプライン獲得

優先的投資②：
2028年度以降の収益に貢献する
重点3領域のパイプライン／技術の獲得





投資方針と株主還元方針

投資方針

研究開発投資

: 5年間 (2018~2022年度)

合計4,500億円

戦略投資

: 5年間 (2018~2022年度)

のM&A投資枠として

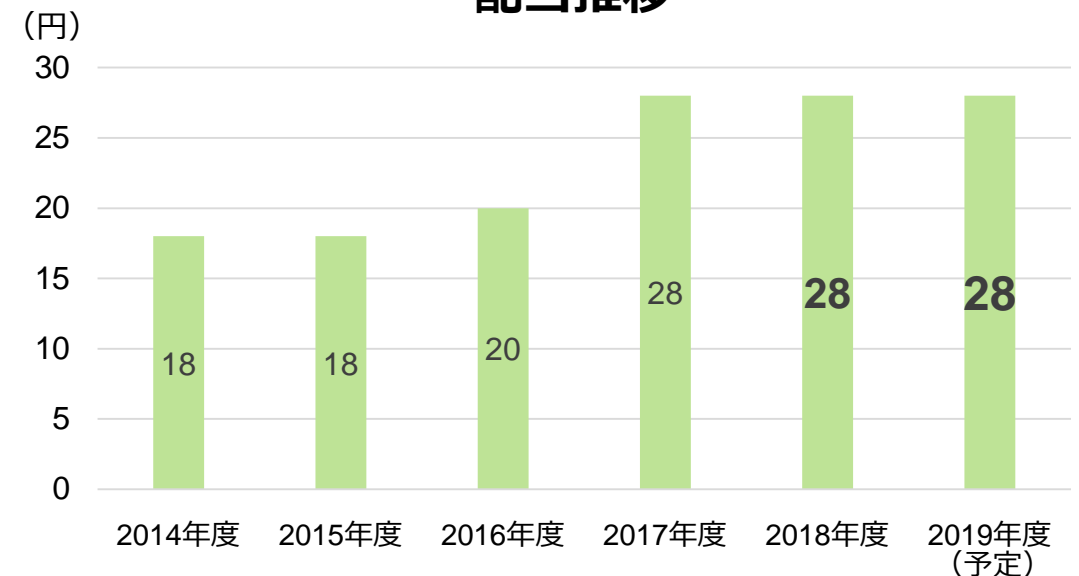
3,000~6,000億円を設定

株主還元方針

- 安定的な配当に加えて、業績向上に連動した増配を実施
- 5年間 (2018~2022年度) 平均の配当性向 : 20%以上

IFRS (国際会計基準)	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	2019年度 (予定)
1株当たり配当金 (円)	28.00	28.00	28.00
連結配当性向 (%)	20.8	22.9	22.7
投下資本利益率 (ROIC) (%)	12.1	11.8	9.9
自己資本当期利益率 (ROE) (%)	12.4	10.2	9.5

配当推移





株式の数（2019年3月31日現在）

発行可能株式数	1,500,000,000株		
発行済株式の総数	397,900,154株		
主な大株主（持株比率）	住友化学株式会社	51.76 %	
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	7.24 %	
	稲畑産業株式会社	5.08 %	



ご参考（2019年8月14日現在）

株価： 1,874円

配当利回り： 1.49%

時価総額 約7,400億円

JPX日経インデックス400構成銘柄

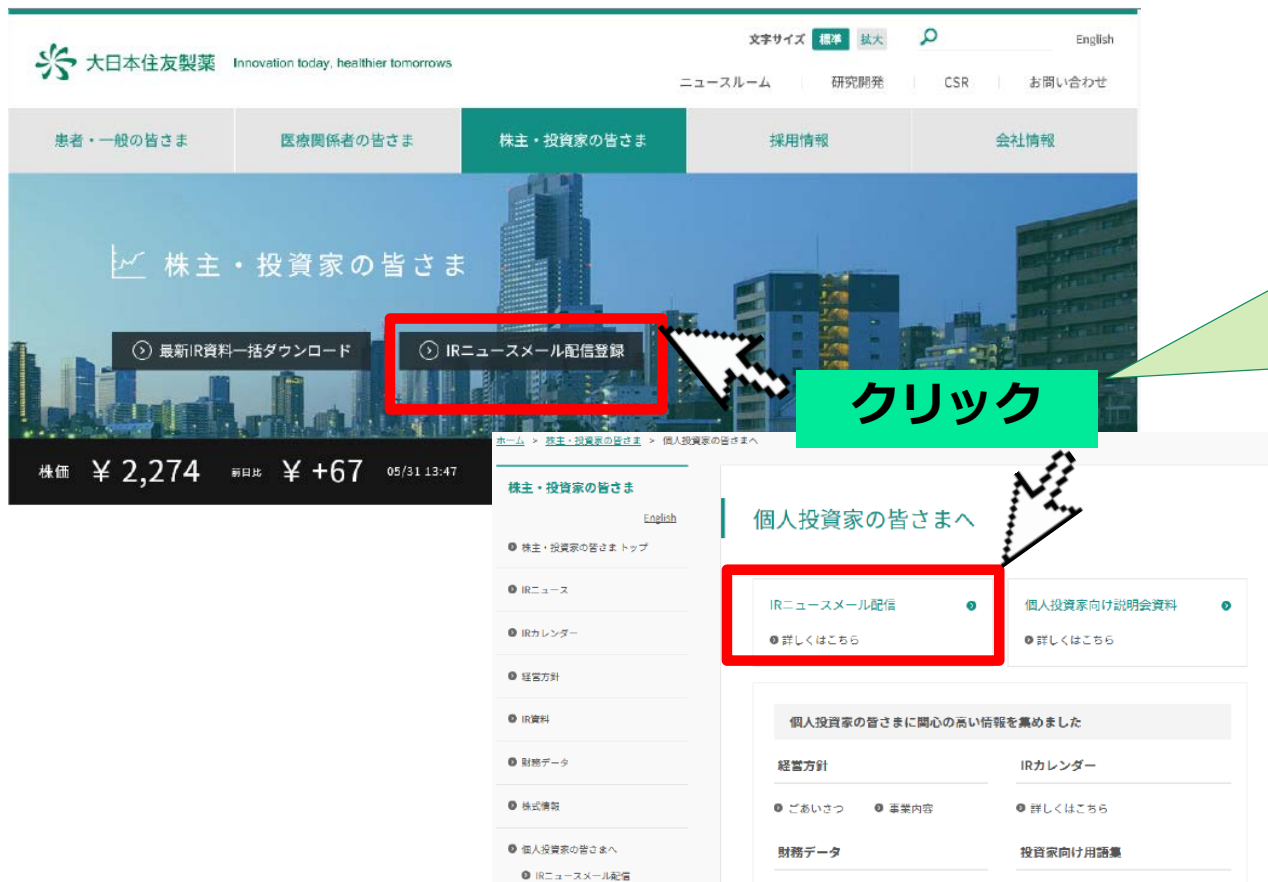
参考資料

個人投資家様向けIR活動のご紹介

WEBサイト：株主・投資家の皆様へ

<https://www.ds-pharma.co.jp/ir/>

決算資料などの情報や説明会の動画を掲載



個人投資家様用
IRニュースメール配信
ご登録いただきますと、
当社のニュースリリースやIR情報等の新着情報を
e-mailにてお知らせします

コーポレートガバナンスとCSR（1）

➤ コーポレートガバナンス体制

- ✓ 取締役会の多様性の追求（取締役：8名、うち社外取締役3名）
- ✓ 取締役会の実効性の向上

➤ 人材育成

- ✓ 個の能力を高めるための全社的教育プログラムの推進
- ✓ 各階層におけるリーダー人材の育成（DSP Academyの継続）
 - 2016年7月に能力別の選抜型研修として「DSP Academy」（経営塾を含む）を設立（年間80名受講）

➤ ダイバーシティ&インクルージョン

- ✓ 女性社員のキャリアアップに向けた取り組みの強化
 - 女性管理職比率10%以上（2020年目標）を2019年4月に前倒して達成
- ✓ 特例子会社を含め、障がい者の適材適所での活躍推進

➤ 環境

- ✓ 低炭素社会構築に貢献
 - CO₂排出量目標（対2017年度比）
2022年度：15%以上削減、2030年度：30%以上削減
 - 企業版2°C目標（SBT）認定取得（2020年度までに）

* SBT : Science Based Targets

コーポレートガバナンスとCSR (2)

国連SDGsの達成への貢献に向けて、CSR経営の更なる進化を目指す

● CSR経営の推進

当社のCSR経営 = 企業理念の実践 → 企業としての社会的責任を果たす

<主な取り組み>

- ✓ コーポレート・ガバナンス体制の追求
- ✓ コンプライアンスの徹底
- ✓ 国内外での社会貢献活動
- ✓ ダイバーシティ & インクルージョンの推進
- ✓ 人材育成

● 国連SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けて

事業を通じて「健康と福祉」をはじめ、幅広い社会課題の解決に貢献していく



(ご参考) 社会的責任投資指数採用

Dow Jones Sustainability Indices (DJSI)

MSCI ESG Leaders Indexes

FTSE4Good Index Series

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

FTSE Blossom Japan Index

SNAMサステナビリティ・インデックス

SUSTAINA ESG AWARD

適応症について

過食性障害（BED）：

- 米国では410万人が罹患
- 苦痛を感じ、また①通常よりもとても早く食べる、②苦しいくらい満腹になるまで食べる、③身体的に空腹を感じていないにもかかわらず大量の食物を食べる、④自分が大量に食べていることに羞恥心を感じるため一人で食べる、⑤後になって、自己嫌悪、罪責感または抑うつ気分を感じるなどの症状を呈する

パーキンソン病に伴うオフ症状：

- 米国では100万人以上、世界では400万人から600万人が罹患
- オフ症状は、適切な薬物治療を行っていても生じるパーキンソン病症状のことであり、朝の起床後や一日を通して周期的に現れ、パーキンソン病患者さんの40%から60%が経験

急性骨髄性白血病（AML）：

- 白血病の一種で、血液をつくる過程で骨髄系の造血細胞に遺伝子異常が起こり、がん化した細胞（白血病細胞）が無制限に増殖することで発症する

加齢黄斑変性：

- 加齢により網膜の中心部である黄斑に障害が生じ、見ようとするとところが見えにくくなる病気
- 欧米では成人の失明原因の第1位、日本では失明原因の第4位。50歳以上の人の約1%にみられ、高齢になるほど多くみられる



Innovation today, healthier tomorrows